

令和6年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立恵那特別支援学校

学校番号

117

学校教育目標	児童生徒一人一人の病気や障がいの状態に応じた適切な支援を通して、「児童生徒一人一人が輝く」教育を目指す
--------	---

自己評価【小学部】

評価する領域・分野	小学部
現状及びアンケートの結果分析等	・学年により在籍児童数に偏りがある。少人数の学年については集団での活動が確保できるよう工夫する。 ・基本的生活習慣を身に付けるために保護者との密な連携が必要となる。 ・児童の一人一人の的確な実態把握を基に教育活動を計画・実施していることについて、保護者への情報発信が不足している。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・体験的な活動と地域資源の活用を通じた教育活動の充実・改善。 ・家庭との丁寧な連携と情報提供の機会の設定。 ・職員の危機管理意識の徹底と疾病・事故の未然防止対策及び教育の強化。
重点目標を達成するための校内組織体制	・学年会、学部会、教科会、学年主任会を通じた取組の推進。 ・学部の役割や各々の分掌、専門性を活かした推進役の位置付け。 ・各分掌の取組との連携（教科会、キャリア教育、主題研究、学校安全等）。
目標の達成に必要な具体的取組	・学習指導要領に基づいた教育活動の計画・実施と「日常生活の指導」等のチェックリストの活用、及び教師間での情報共有。 ・児童の興味・関心や生活経験を高めるための体験的な活動の設定。 ・連絡帳や個別懇談等での日々の保護者との連携の充実とキャリア教育通信や学部懇談等での情報提供。 ・安心・安全な学校生活が送れる教育環境の整備とヒヤリハットの共有。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・学習評価 ・職員アンケート及び職員からの意見 ・連絡帳や懇談会での保護者からの意見や感想 ・学校評価アンケート
取組状況・実践内容等	・学年会や主題研究の場で、児童の情報共有や授業の計画・評価等について、活発な討議を行った。 ・校外学習等、繰り返しを大切にしたい体験的な活動を計画、実施した。 ・ヒヤリハットや事故報告等、事後の対応を迅速に行った。
評価の視点	評価
① 児童一人一人の目標に対する学習の成果や、もてる力の伸長が認められたか。	A (B) C D
② 学習指導要領に基づいた学習の計画・実践・評価を実施することができたか。	A (B) C D
③ 児童の健康・安全を守るために、組織的に取り組むことができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
○学年会や打ち合わせにおいて児童についての共通理解を図り、支援方法や授業内容等の計画・改善を日常的に行ったことで児童の成長を感じることができた。 ○保護者と連絡帳や学級通信等を通して丁寧な連携を行い、また学部懇談では保護者同士の情報交流の場を設けることができた。 ▲日常生活の指導チェックリストの活用が十分に行えていない。またチェックリスト等を使った家庭との連携に難しさがある。 ▲教材作りや授業準備、学年会等に時間を取られることがあり、また支援が難しい児童への対応について、余裕がなく負担感を感じている職員もいる。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・日常生活チェックリストのデータの保存場所を決め活用しやすいようにする。家庭との共有ができるよう、学部懇談等の機会に保護者へ伝えていく。 ・児童への支援について相談しやすい状況をつくるために、複数の教師で考える機会がもてるよう校内ケース会議を実施する。また児童が利用している関係機関とのつながりを充実する。 ・児童についての確実な引継ぎと学部全体で保護者との具体的な連携方法についての共通理解をしていく。

自己評価【中学部】

評価する領域・分野	中学部	
現状及びアンケートの結果分析等	・地域資源や人材の活用と連携を図った学習を推進する。 ・連絡帳や通信、ホームページ等を活用しながら、学校での学習内容を分かりやすく伝え、保護者との信頼関係の強化を図ることが必要である。	
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・挨拶や身だしなみ等の基本的生活習慣を確立する。 ・学年間で系統性をもたせた教育計画の作成と実施。 ・連絡帳や通信、懇談等を通して、保護者との効果的な連携を図る。	
重点目標を達成するための校内組織体制	・学年主任会や教科担当者会、学年会、学部会が連携した支援体制 ・校内および関係機関とのケース会議による校内外との連携会議	
目標の達成に必要な具体的取組	・キャリア教育や自立活動、日常生活の指導の視点を大切にした3年間を見通した教育計画を作成する。 ・連絡帳や通信、HP、懇談等、連携ツールを活用した保護者との共通理解の形成を進める。	
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・学習評価アンケート ・職員アンケートや職員からの意見 ・連絡帳や懇談会等での保護者の意見	
取組状況・実践内容等	・3年間の系統性を考慮しながら、地域資源や人材を活用した校外学習・泊を伴う校外学習を計画・実施した。 ・系統性や関連性を図るための手立てを用意し、部内で共通理解を図った。	
評価の視点		評価
①生徒が楽しく生き生きと学校生活を送ることができたか。		Ⓐ B C D
②生徒の情報が職員間で十分に伝わり、個々に応じた適切な対応ができたか。		A Ⓑ C D
③保護者や関係機関との協働・連携がとれたか。		A Ⓑ C D
成果・課題		総合評価
○学部内だけでなく、他学部も含めた系統性のある学習計画や校外学習計画を作成することができた。 ○地域の人との交流の輪が広がり、生徒が積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿がみられた。 ▲中学部として、生徒や保護者に十分な進路情報を提供する。		A Ⓑ C D
来年度に向けての改善方策案	・教職員だけでなく、保護者や地域、居住地校とも対面のコミュニケーションを大切にし、生徒の成長を支えるより良い関係づくりを目指す。 ・担任を中心とした教職員で、多面的に生徒のアセスメントを行い、生徒にあった適度抵抗のある教材を作成するとともに、生徒が自分で考え、取り組むことができる支援を行う。 ・進路支援部と連携をし、中学部としての進路学習を充実するとともに、連絡帳や学年通信を通じて、保護者にも情報提供や啓発を積極的に行う。	

自己評価【 高等部 】

評価する領域・分野	高等部
現状及びアンケートの結果分析等	- 生徒の経験を広げる学習活動の充実、生徒一人一人に合わせた学習内容や教材教具の活用等に取り組む必要がある。 - 関係機関等と連携した生徒指導や進路指導等の充実を図る。 - 教育活動に関する情報を、保護者をはじめ学校外に適切に発信する必要がある。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	- 生徒一人一人の発達段階や学習到達段階に応じた指導により、自己実現を目指すための基礎的、基本的な知識と技能を育成する。 - 家庭や地域(社会)との連携を密にして、家庭生活及び社会生活に必要な生活習慣や社会常識を育成する。
重点目標を達成するための校内組織体制	- 学年主任会や学年会、学部会を通じた取組の推進 - 各分掌の取組との連携（進路指導、生徒指導、キャリア教育等） - 校内、校外の関係諸機関との連携会議
目標の達成に必要な具体的取組	- 生徒の実態や学部段階に応じた教育課程や授業内容の見直しと改善 - 進路実現に向けた学習指導、生活指導の充実 - 学級通信やHP、連絡帳、懇談等を活用した情報発信や共通認識
達成度の判断・判定基準あるいは指標	- 学習評価 - 連絡帳や懇談会での保護者からの意見や感想 - 学校評価アンケート及び職員からの意見
取組状況・実践内容等	- 各学年段階に合わせた教科指導、校外学習、学校行事等を計画・実施した。 - 授業や実習だけでなく、外部機関による研修会の実施等、自立や社会参加に向けた学習の場を設けた。 - 保護者に生徒指導や進路に関する情報を発信し、懇談等を活用して卒業後の生活について共通認識した。 - 生徒に関する情報を学部内で共有し、必要に応じて校内外でのケース支援会議を実施した。
評価の視点	
① 生徒が主体的に学習活動に参加し、知識・技能を身に付けることができたか。	A B C D
② 進路実現に向けた学習指導や生活指導の充実を図ることができたか。	A B C D
③ 保護者や校内外の関係諸機関と連携し、協働して生徒個々の支援ができたか。	A B C D
成果・課題	
総合評価	
○各学年段階や生徒の実態に合わせた学習内容により、生徒が目標設定・学習・振り返りを重ねながら力を付けていくことができた。 ○進路実現に向けて担任・学年・分掌が連携し、各学年に応じた進路指導・生活指導を実施することができた。 ○問題の早期解決に向け学年や関係職員でチームをつくり取り組むことができた。 外部の関係諸機関との連携を図り、幅広い支援を進めることができた。 ▲生徒や指導に関する学部間の情報共有をさらに充実する。 ▲特定の教員に負担がかかる場面があるので、計画的な実施や業務の分担をする。	
来年度に向けての改善方策案	- 生徒一人一人の進路実現に向けて、企業内作業学習、現場実習の評価などを詳細に分析して共有し、卒業後を見据えた学習・生活支援の充実を図る。 - HPや校内掲示、そして分掌・学年通信などを積極的に利用し、生徒の充実した活動内容を外部へ積極的に発信していく。 - 年間を通じた学習や行事等の計画をもとに組織で取り組む体制を確立する。

自己評価【 教務部 】

年間目標	児童生徒が必要な資質、能力を育むための学習活動と学習評価の充実を図る。
現状及びアンケートの結果分析等	学校関係者評価では、地域連携による地域学習等に関する要望があり、さらなる取組の充実が求められる。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・小・中・高系統性のある教育課程の編成と教育の質の向上 ・業務の効率化 ・社会に開かれた教育課程の実現に向けた地域や家庭との連携・協働 ・タブレットを始めとする ICT 機器の効果的な活用と機器の管理
重点目標を達成するための校内組織体制	・学部内、各学部間での情報共有と検討の場となる教科会の運営（キャリア教育の観点から） ・学習支援に関わる情報の集約と共有 ・校務支援システムの操作に関する研修の実施 ・学校運営協議会と連携した教育活動、地域資源の開拓と教育計画への反映 ・ICT 推進学年担当と連携した 1 人 1 台タブレット活用の推進
目標の達成に必要な具体的取組	・学部内と学部を超えての教科会を実施し、系統性のある教育活動の見直しや指導方法の向上につなげる（主題研究との連携）。 ・教科会を軸とした教育内容や指導方法等の改善を行うとともに、ICT を含めた学習支援にかかわる情報を効果的に活用できるよう教材の共有フォルダ等の整備と管理を行う。 ・校務支援システムへスムーズに移行できるように、研修を実施する。 ・年間 3 回の授業参観を実施する。また教育方針の一つである「地域とともにある学校」の実現のために地域資源の活用を充実させていく。 ・教科用図書（☆本等）の指導書を年間計画作成と学習評価に活用できるよう周知を行う。 ・1 人 1 台タブレットを活用した具体的実践を蓄積し、共有していく。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・学校運営協議会、PTA 役員、保護者、関係機関からの意見 ・学部会、職員会、アンケート等による職員からの意見 ・児童生徒の学習状況
取組状況・実践内容等	・出席簿、個別の教育支援計画、個別の指導計画の校務支援システムへの移行。 ・教育課程の編成及び校外学習の行き先を、小中高の系統性の視点から見直し。 ・教科書の選定について、段階ごとに整理。 ・Teams の活用推進、プロジェクターの配備やテレプレゼンスロボットの活用。
評価の視点	
① 家庭や地域と協力した教育活動が推進できたか	A (B) C D
② ICT を含めた学習支援にかかわる情報を効果的に活用できたか	A (B) C D
③ 児童生徒が必要な資質、能力を育むための学習活動が実施できたか	A (B) C D
④ 業務の効率化を推進できたか	A (B) C D
成果 (○)・課題 (▲)	
○教育課程の編成や校外学習の行き先について、見直しが進みつつある。 ○教科書選定を段階で固定、Teams 運用の試行等、業務の効率化を試みた。 ▲合わせた指導について、評価の視点から、教育課程の編成を検討する必要がある。 ▲地域に開かれた教育課程の実現に向けて、実践事例を共有し、教育効果を考えながら、教育活動の精選や教育計画の立案の検討が必要である。 ▲ICT 機器を使った実践の集約や共有ができると良い。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・教科会を活用し、合わせた指導の在り方や小中高の系統性の視点から、教育課程の編成を検討する。 ・地域に開かれた教育課程の実現に向けて、今ある実践事例を共有して特色を整理するとともに、教育効果を考え教育活動の精選を検討する。

自己評価【 特別支援部 】

年間目標	・ 主題研究を軸として職員のニーズに応じた研修会を計画・実施し、教師としての指導力向上を図る。 ・ 関係諸機関との連携を密にして支援体制の充実を図り、地域の相談ニーズに対応する。
現状及びアンケートの結果分析等	・ 関係機関と連携を密にしながら、研究・研修や連携会議等を実施し、児童生徒の理解や支援指導に生かすことができた。 ・ 関係諸機関等への情報発信や連携体制は整いつつあり周知もされてきたが、校内保護者への情報発信や周知は十分とは言えなかった。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・ 主題研究や校内研修を通して校内の教職員の専門性向上と教育実践の充実を図る。 ・ 地域の要請に応じて特別支援教育についての理解や支援の充実を図り、関係諸機関との連携を取りながら、地域支援センターとしての役割を果たす。
重点目標を達成するための校内組織体制	・ 研究主任・学部主任を中心とした学部内・学部間の連携 ・ 教職員の専門性向上のための情報発信と研修会の計画・実施における他分掌との連携 ・ 各学部・分掌、特別支援教育コーディネーターとの連携・協働 ・ 他校の特別支援教育コーディネーターやコア・ティーチャー、関係諸機関、専門家等の活用
目標の達成に必要な具体的な取組	・ アンケート等を活用して職員のニーズを把握し、主題研究や研修を計画的に計画・実施し、実践力の向上を図る。 ・ 資質の向上に役立つ情報の収集し、回覧・レポートや通信にて発信する。 ・ 校内外のニーズに応じて、医療、福祉、労働等の関係諸機関との連携協力を図る。 ・ 必要に応じて地域の特別支援コーディネーターやコア・ティーチャー、関係諸機関、専門家等を活用する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・ 研究・研修に関する職員アンケート ・ センターの機能事業実施状況や利用者からの意見 ・ 関係機関やPTA役員等からの意見
取組状況・実践内容等	・ 主題研究において、グループ討議を軸にしながら「キャリア学習プログラム」の作成や授業における実践に取り組んだ。 ・ 活用できる人材や資源を生かして柔軟に研修を計画・実施するとともに、通信や回覧・レポート、教材・教具展等で、情報の提供や共有を図った。 ・ 外部からの要請に応じて、センター的機能の業務を遂行した。
評価の視点	評価
① 指導力向上のために適切な研修の計画・実施や情報の提供ができたか。	Ⓐ Ⓑ Ⓒ Ⓓ
② 卒業後を見据えた主題研究の活動を通して、教育内容について学部間の一貫性や系統性を整理し、共通理解が図れたか。	Ⓐ Ⓑ Ⓒ Ⓓ
③ 関係各所との連携を図り、センター的機能のニーズに対応することができたか。	Ⓐ Ⓑ Ⓒ Ⓓ
④ 地域の諸学校や保護者への情報提供を工夫し、理解啓発が図れたか。	Ⓐ Ⓑ Ⓒ Ⓓ
成果（○）・課題（▲）	総合評価
○講師による指導・助言を受けながら計画的に主題研究を進めることができた。 ○日課の変更により、全校研究会や研修の時間を十分確保できた。 ○公開講座への外部参加者やセンター的機能の利用件数が増加した。 ○校内の児童生徒の支援のための関係諸機関との連携体制が整いつつある。 ▲研究・研修の成果を、教育活動に還元していけるように取組方法を再考する。 ▲外部支援に対応する職員が固定化しやすいため、体制の見直しが必要である。	Ⓐ Ⓑ Ⓒ Ⓓ
来年度に向けての改善方策案	・ 引き続き外部講師にアドバイザーの依頼をするとともに、日課を変更した研究の日を設定する。 ・ Teams やアンケート機能を活用し、校内職員の研修に関するニーズを反映しやすくする。 ・ 校内保護者に向けてもセンター的機能に関する情報を提示していく。

自己評価【 健康安全部 】

年間目標	児童生徒及び職員の健康・安全のために、傷病・事故災害の発生を未然に防ぐための危機管理、傷病・事故災害発生時の危機管理、事後の危機管理について、職員全体で組織的に取り組む。
現状及びアンケートの結果分析等	命を守る訓練の実施や気象警報発表時の対応等、児童生徒の安全に気を配っている。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	三つの柱：健康・安全教育、健康・安全管理、組織活動 ・健康教育・食育・安全教育の推進 ・危機管理・安全管理に関する情報発信による事故や傷病の未然防止 ・防災教育の推進 ・保護者や関係機関との連携や協力体制づくりの推進。 ・感染症予防（衛生管理）の組織的な取組
重点目標を達成するための校内組織体制	・学校保健安全委員会（学校医、管理医、学校薬剤師等）・医療的ケア検討委員会（主治医・指導医との連携）・食物アレルギー対応委員会・防災委員会・全職員による月一回の安全点検・学校安全衛生委員会（産業医との連携）・ヒヤリハットと事故報告
目標の達成に必要な具体的取組	・医療的ケア研修・緊急時対応訓練・食物アレルギー研修・救急救命法研修・歯みがき教室・ヒヤリハット報告の分析と対応・防災計画の改善・命を守る訓練と防災教育の取組の工夫・防災学習の見直し・アレルギー対応や異物混入への対応・健安ハンドブックの活用・感染症対策マニュアルの周知と徹底
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・校内の事故やヒヤリハット発生件数・医療的ケア検討委員会や学校保健安全委員会、安全衛生委員会での検討・消防署、安全点検チェック表や清掃状況のチェックと確認・各種訓練や研修会後のアンケートによる職員からの意見・児童生徒、保護者、職員へのアンケート
取組状況・実践内容等	・食育に関わる職員研修と研究授業の実施。学校医と連携した歯科指導の実施。消防士による生徒向けに救急救命法講習を実施。 ・学校近隣に在住する防災士と連携して防災学習、命を守る訓練を実施。 ・個人の意思を尊重したマスク使用の見直しと基本的な感染症対策の徹底。
評価の視点	
評価	
① 傷病・事故を予防するための危機管理ができたか。	A (B) C D
② 傷病・事故発生時に迅速且つ適切に対応することができたか。	A (B) C D
③ 傷病・事故発生時や災害発生時の対応について周知・徹底できたか。	A (B) C D
④ 外部専門機関との連携を図り、指導・助言を活かすことができたか。	A (B) C D
⑤ 保護者・地域関係機関に対して理解や協力を得られたか。	A (B) C D
成果 (○) ・課題 (▲)	総合評価
○医療的ケアの対象児童生徒の安全な校外学習のため、看護師が校外学習の下見に同行し、医療の視点で現地を確認した。 ○シェイクアウト訓練を様々な時間帯に設定し、何度も行ったことで児童生徒が放送を聞いて素早く身を守る行動ができるようになってきた。 ▲大きな怪我はなかったが、小さな怪我は何度も起きている。危険な状況を整理し、周知していく。 ▲食育の研究授業を行い、一部の学部、学年は段階を踏んで学習を進めることができた。他の学年も、栄養教諭を活用した食育に計画的に取り組んでいけるとよい。 ▲アンケートより医療機関との連携について「分からない」が多い結果があった。学校医の助言で家庭に有益な情報は、定期的に通信やホームページで発信する。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・ヒヤリハットの報告の様式を見直し、環境や体制の改善につなげる。 ・学校ホームページ、保健だより等を活用し、健康安全部が関係する取組を発信する。 ・令和7年度は医療的ケア（日常的ケア）の児童生徒が3学部に在籍する予定である。各学部、看護師との情報交換、打ち合わせを十分に行い、円滑に授業や校外活動が進められるようにする。

自己評価【 生徒支援部 】

年間目標	児童生徒が 安全 かつ 安心 して 充実した 学校生活を過ごせるよう、学校生活全般を通して積極的な生徒支援に努める。
現状及びアンケートの結果分析等	・教師が愛情をもって児童生徒に接し、良好な関係にある。 ・MS リーダーズ活動やボランティア活動等、将来の社会自立につながる力の育成が推進できている。 ・「いじめ防止基本方針」に基づく取組の成果が周知されてきているが、十分ではない。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	・「生徒指導提要」の内容を校内で共通理解し、積極的、組織的な生徒指導を進める。 ・仲間とともに、生き生きと活動するために必要な態度や能力の育成をめざす。 ・関係諸機関との連携を図り、児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた生徒支援に努める。
重点目標を達成するための校内組織体制	・生徒支援部、MS リーダーズを中心とした学校体制 ・児童生徒の共通理解が図れる連携体制 ・関係諸機関との日頃からの連携体制
目標の達成に必要な具体的な取組	・安全・安心した学校生活のための支援、社会生活に必要なルールやマナー指導等の安全に関する支援・指導の徹底 ・仲間とともに、自発的・主体的に活動できるような児童生徒主体の活動を実施 ・心のふれあいを大切にし、温かい人間関係を醸成する教育活動 ・児童生徒理解の深化、保護者や関係機関と連携した適切な教育相談活動の実施
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・学部会や職員会による意見 ・児童生徒の集団活動への参加態度 ・いじめの有無や児童生徒間の協力関係の把握 ・学校関係者評価
取組状況・実践内容等	・交通安全教室、自力通学指導、運転手や添乗員と連携した安全指導。 ・全校集会、ひびきあい活動、児童生徒会活動等を通した特別活動の充実や人権意識の高揚。 ・児童生徒、保護者へ向けたいじめパンフレットの作成。 ・児童生徒会、委員会活動、MS リーダーズ活動等、児童生徒主体の活動。 ・部活動の充実と各種大会への積極的参加。 ・アンケートや面談、日常的な行動観察等を通した児童生徒理解、SC や関係諸機関等と連携した教育相談及び生徒支援体制の充実。
評価の視点	評価
① 児童生徒が不安なく学校生活を送ることができたか。	A (B) C D
② 仲間とともに生き生きとした活動ができたか。	A (B) C D
③ 児童生徒の情報が職員間で十分伝わり、個々に応じた対応ができたか。	A (B) C D
④ 個々の児童生徒について必要な連携ができたか。	A (B) C D
成果 (○) ・課題 (▲)	総合評価
○学校行事やひびきあい活動など、児童生徒が全校や学部の前に立って行事を進める機会が多く、やりがいを感じながら進められることができた。 ○SC カウンセリングやスペシャリストサポート事業を有効的に活用することができた。 ○借り上げバスがなくなったが、スムーズにスクールバスを運行することができた。 ▲SC による職員研修の内容について、充実を図る。 ▲スクールバスを利用した校外学習の変更や申請書の提出遅れが目立った。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・児童生徒主体のひびきあい活動、児童生徒会活動、MS リーダーズ活動をさらに充実できるよう取り組む。 ・不登校対応やSOS の出し方について、職員研修を実施する。 ・スクールバスを利用した校外学習の申請が期日までにできるよう、各学部にスクールバス校外学習申請担当職員を配置する。

自己評価【 進路支援部 】

年間目標	児童生徒が、自らの生き方を考え、主体的に進路を選択・決定できるように、早期からの継続的、組織的な支援を行う。
現状及びアンケートの結果分析等	高等部の卒業後の進路を具体的に意識した取り組みは高等部に集中している。全校に進路に関する活動の紹介を通信やホームページ、PTA 研修を通じて行っているが、さらに、情報発信を充実させ、早期からキャリア教育を通して進路について意識していく必要性を感じる。
今年度の具体的なかつ明確な重点目標	・保護者が知りたい情報を収集し、小学部や中学部の早い段階から進路について各年代で付けておくことよい力について意識していくことができるよう通信やホームページ、研修会等で最新且つ必要な進路情報の提供をしていくと共に、教務部・特別支援部と連携してキャリア教育の充実を図る。 ・合同説明会と会社・事業所見学が連動し生徒や保護者がより主体的に情報を集めたり、学校内で情報収集が図れたりするような環境整備。 ・作業学習や現場実習、校外の製品販売会を通して勤労観・職業観を身に付けるとともに、将来に対する目的意識をもって、自己の進路を主体的に選択決定できる能力や態度を育成する。 ・職場開拓及び関係機関へ繋ぐ支援や卒業生への追支援の充実。
重点目標を達成するための校内組織体制	・進路先の決定、中高作業学習や RVB、実習等を通じた、学年や学部との連携とキャリアパスポートの作成と活用等を通じた分掌間連携。 ・外部関係機関と連携した支援ネットワーク体制と交流、イベントの実施。
目標の達成に必要な具体的取組	・進路の状況や社会の動向に対応して各種実習や体験学習、作業学習、キャリアパスポート、職業に特化した取組についての見直しを図る。 ・福祉行政、福祉事業所、ハローワーク、職業訓練校等からの定期的な情報収集と学校だより、ホームページでの情報発信及びイベントの実施。 ・就業・生活支援センターと連携した追支援と職場訪問、職場開拓の実施。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	・授業や活動の目標達成度と適切な進路決定。 ・児童生徒、保護者、連携関係機関からの意見、感想。学校アンケート。 ・卒業生の就労、定着の状況。卒業生や就労先、関係機関からの意見。
取組状況・実践内容等	・進路だより・キャリアパスポート・作業学習集中週間（中）・現場実習、インターンシップ、企業内作業学習（高）、企業事業所見学（高） ・合同説明会及び見学会（中高）・職業（高）・製品販売会（中高）・外部機関による出前講座（高）・卒後支援・進路研修（教員）
評価の視点	
①個々の児童生徒に応じた進路学習ができたか。また卒業学年を希望に沿った適切な進路先へ繋ぐことができたか。	A (B) C D
②提供できた情報は量、質ともに十分だったか。	A (B) C D
③外部との連携を図り、適切な卒後支援ができたか。また当校の理解啓発が進み、新たな職業や職場が開拓できたか。	A (B) C D
成果 (○)・課題 (▲)	総合評価
○校外での販売会の販路拡大により地域の方々に当校生徒の作業製品の周知に繋がり、一般の方への作業体験会を通して生徒の「教える」ことを通した製品への理解やコミュニケーション力の向上に繋がった。 ○中高の連携や進路だより、合同説明会を始め企業や事業所の情報提供を拡大した取組により生徒の就労に対する意欲向上に繋がるとともに、進路指導や進路決定において外部機関と連携して行うことができた。 ▲校外販売が増えたことにより保護者への案内文書の配付に困難さがあったので、配付文書をまとめたり書式を工夫したりしていく必要がある。	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	・保護者が求める情報を収集し、小中学部の早い段階から進路について意識することができるような内容を工夫し、通信やHP等で情報発信していく。 ・配付物や提出物の内容や書式を精査し保護者や教員に負担のないようにする。

自己評価【 渉外部 】

年間目標	会員同士の連携を図り、自主的なPTA活動の推進、活性化をはかる。 学校や児童生徒をとりまく地域の人や関係機関との交流を深める。 災害時に対応できるPTA組織と意識づくり。
現状及びアンケートの結果分析等	「学校は、ホームページや地域の広報、地域での作品展示等を通して地域に情報を発信している」という項目で、「あてはまる」という回答が一昨年より少し増え、88%ほどになったが、90%以上を目指したい。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	- 各種委員会活動において、会員による主体的な計画、準備、運営を図る。 - ホームページや学校だより等の情報発信に力を入れる。 - 災害時に対応できるPTA組織と会員の意識づくり。
重点目標を達成するための校内組織体制	- 学部間で連携できるような係分担、PTA各委員会の担当者を決める。 - PTA役員や会員との連携を図り、PTA活動を円滑に進める。 - 災害時に対応できるPTA組織と校内体制との連携を確立する。
目標の達成に必要な具体的取組	- PTAと学校担当者との連絡を密に行い、協力して円滑な活動を進める。 - 研修会を通してPTA会員の学びや交流の機会を図る。 - 学校ホームページ内容の見直し・更新。新着情報を定期的に発信する。 - 災害時に連絡・活動できるPTA組織づくりと危機意識を高める。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	- PTA役員会での意見、会員アンケート - 学校ホームページの更新、情報の掲載状況 - 災害時に対応できる組織づくりについては、講師や外部機関からの意見
取組状況・実践内容等	- 外部講師を招いての講演会や、夏まつり、ロックビレッジコンサート、役員会、校外会議等、ほぼ予定通り実施することができた。 「子どもの写真展」「おやじとおふくろの会（PTAと職員の懇親会）」を数年ぶりに復活させ、開催することができた。 「恵那市・中津川市 企業・福祉事業所等合同説明会」をPTA研修会として位置付けて、全学部・全学年に案内文書を配布した。さらに、企業・福祉事業所の見学会も同時に実施した。
評価の視点	評価
① 会員同士の連携を図り、自主的なPTA活動の推進、活性化を図れたか。	A ☒ B ☐ C ☐ D ☐
② 学校ホームページにて定期的に情報を発信することができたか。	A ☒ B ☐ C ☐ D ☐
③ 災害時に対応できる組織づくりとそれぞれの危機意識がもてたか。	A ☒ B ☐ C ☐ D ☐
成果（○）・課題（▲）	総合評価
○夏まつりやPTA研修会、子どもの写真展、PTAと職員の懇親会等、企画・運営をPTA主導で、どれも充実した内容で実施することができた。 ○学校ホームページにて各学部の学習の取組について定期的に情報を発信することができた。 ○災害時に対応できる組織づくりについては、防災に関する研修会の実施や、災害時の連絡手段の一つとしてのグループLINE作成等、危機意識や人とのつながりを高める、第一歩を踏み出すことができた。 ▲文書のデジタル化に向けて「すぐる」の有効活用。	A ☒ B ☐ C ☐ D ☐
来年度に向けての改善方策案	- PTA役員や会員と連携を密に取りながら、行事や研修会等の企画・運営等での自主的な活動の推進、活性化を図る。 - 学校ホームページ画面をカジュアルなものにアップデートし、さらに見やすくすることで、閲覧数を増やす。 - 学校外での非常変災時の避難場所や安否確認方法等について、PTA総会で会員同士集まり、確認する機会を設ける。

学校関係者評価 （令和7年1月31日実施）

- 岩村町内を歩いたり、施設を活用したりすることが、恵那特別支援学校の子どもたちのことを知ってもらうことにつながっている。また、多くの方に来校してもらい学校のことを知ってもらうことも大切なことである。
- 来年度完成予定の「佐藤一斎学びの広場」には、図書館やフリースペースができるので活用してほしい。
- 事業所と学校の連携の場として、サービス担当者会議があるので、今後も活用していきたい。
- 卒業後を見据え、教師と一対一での活動から、徐々に支援を外していくことが必要ではないか。子どもたちが困り感を感じて自ら支援を求める力を付けることも大切である。
- 保護者が就労への不安を感じないようPTAと連携を図りながら、情報を知らせていきたい。『先輩お母さんの話を聞く会』など、座談会形式の会をもつ取組も良いではないか。

【来年度に向けて】

- 岩村町内の地域資源や人材の活用を更に推進していく。
 - 「佐藤一斎学びの広場」で、現在も行っている恵那市図書館の活用を継続して行いたい。
 - また、生徒が清掃やボランティア活動を行う場としても利用したい。
 - 今年度、岩村町や中津川市の民生委員・主任児童委員の方に学校見学を実施した。更に地域の方が学校に来ていただけるよう呼びかけをする。
- 卒業後の生活を具体的にイメージし、地域で活動していく中で生活経験の拡大を図る。
 - 小学部、中学部、高等部が系統制をもって、地域の様々な施設を利用しながら地域の人との交流を深めるとともに地域のことを知る学習に取り組む。